

2022年度 日本工学院専門学校											
A I システム科											
AIプロデュース											
対象	1 年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	久保田 達也			実務経験	有	職種	世界を探検する企画マン				
担当教員紹介											
サンリオ、東急ハンズ、電通などの企画業務を歴任。インターネットを使い、世界を探検する企画マンとして21世紀の生き方の研究。通称くぼたつ。											
授業概要											
各授業の前半で具体的なツール(ロジックツリー、ピラミッドストラクチャー)やその概念について説明を行い、後半ではそれらのツールを実際に使って考えを表現する技術を身に付けていく。また、最後にはディベートを通じて他者との意見交換を行い、多角的にものごとを見つめる習慣を養うとともに他者の尊重についても身に付けさせる。											
到達目標											
仕事において自身の意見は相手に伝わってこそ意味があるものであるという認識をしっかりと持ち、その重要性について説明ができる。 また、他者に自身の主張を説明をする際に人それぞれ背景が違えば考えも違うという前提を理解し、どのようにすれば相手に伝わるかということを中心に意識できるようになり、ロジックツリーやピラミッドストラクチャーなどの具体的なツールを用いて考えを表現することができる。											
授業方法											
仕事において自身の意見は相手に伝わってこそ意味があるものであるという認識をしっかりと持ち、その重要性について説明ができる。 また、他者に自身の主張を説明をする際に人それぞれ背景が違えば考えも違うという前提を理解し、どのようにすれば相手に伝わるかということを中心に意識できるようになり、ロジックツリーやピラミッドストラクチャーなどの具体的なツールを用いて考えを表現することができる。 アイデアを出す、それを実現化する作業を行う。実装したものを最後に発表する。											
成績評価方法											
試験・課題 30% 試験と課題を総合的に評価する 成果発表 60% 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する (口頭・実技) 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない											
履修上の注意											
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。欠席は基本的に認めない。授業に出席するだけでなく、社会人として働くことを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。課題によってはグループでの作業を行うため協調性も評価の対象となりうる。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	科目の概要、評価法について理解する										
第2回	M E C E (ミーシー)、演繹法と帰納法について説明できる										
第3回	W h a t ツリーの概要を理解する										
第4回	W h a t ツリーを用いて課題に対する原因を記述できる										
第5回	W h y ツリーの概要を理解する										

2022年度 日本工学院専門学校	
A I システム科	
AIプロデュース	
第6回	Wh y ツリーを用いて課題に対する原因を記述できる
第7回	H o w ツリーの概要を理解する
第8回	H o w ツリーを用いて課題に対する原因を記述できる
第9回	ピラミッドストラクチャーの概要を理解する
第10回	ピラミッドストラクチャーを用いて、自身の主張を記述できる。
第11回	ズームイン・ズームアウトについて説明できる
第12回	課題に対する自身の考えを説明できる
第13回	課題に対する自身の考えを説明できる
第14回	課題に対する自身の考えを説明できる
第15回	ロジカルシンキング、クリティカルシンキングの重要性を説明できる。